

臨床研究における「統計」とは？

臨床研究における「統計」とはどんなことを行っているかご存じでしょうか？

From-J 研究で「統計」を担当している高橋です。皆さんは、臨床研究における「統計」とはどんなことを行っているかご存じでしょうか？

ある治療法に効果があるかないかを、「全員の患者さんではなく、一部の患者さんで」明らかにできるとする考え方が臨床研究における「統計」の本質です。もちろん一部の人の選び方によっては結果が異なってきますが、「統計」ではどの程度異なるかを科学的に(確率などを用いて)評価します。そして一部の人の選び方による結果の異なり方を考慮しても「この治療法に効果がある」ことが、確率 95%(99%とする場合もあります)以上で言えるとき、私たちは「確率 95%あるいは確率 99%で新しい治療法が有効であった」と考えます。



研究では皆さんから腎機能や血圧など様々な値(データ)をいただきますが、どのような値をいただくかとか、どのくらいの頻度でいただくか、どこからいただくのか(本人、病院、栄養士など)を決める必要があります。もっと言えば、皆さんのように研究に参加いただく人を、どの地域からどのような方に、何人くらい参加いただくかとか、そしていただいたデータをどのように計算(解析)するのかとか、をも決めておかなければなりませんし、得られた結果から、言えること言えないことをはっきりさせることが重要です。こういうことも「統計」で必要になる考え方です。

本研究では「慢性腎臓病(CKD)重症化予防に、かかりつけ医と専門医の連携促進支援等システムが有用であるかどうか」を明らかにするために、CKD 診療ガイドに従った診療の群と、これに連携促進支援等システムを加えた群を比較することにより、患者さんの受診・受療行動に差があるのか、疾患の進行具合に差があるのかを比較しております。



参加いただいた皆さんの情報を基に、すべての患者さんにおいて差があるのかどうかを明らかにするべく、現在日夜努力しております。参加者の皆様におかれましては、今後も引き続きよろしくご協力いただければ幸いです。

**あなたの体のために、
月に 1 度はかかりつけ医を受診しましょう**

※FROM-J 通信次号(50号)の配信は、12月頃を予定しております。

FROM-J研究代表者 筑波大学医学医療系臨床医学域腎臓内科学 山縣 邦弘
〈お問い合わせ先〉 FROM-Jヘルプデスク TEL: 0120-15-2664 (平日 9:00~17:30)

※ご辞退のお申し出と行き違いに本紙がお手元に届きました場合は、ご容赦ください。